

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
- 2 「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成

2 中期的目標

1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

(1) 学力の向上 (授業力向上、学習環境整備、ICT活用)

- ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。
- イ ICTを活用した授業改善についての研究を推進する。
- ウ 自学自習力をつける。
- * 授業アンケートの結果、授業満足度は平成 28 年度(第二回)が 75.5%。これを引き上げ、平成 31 年度には 80%とする。

(2) 希望進路の実現

- ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。
- イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。
- * 四年制大学現役進学率は平成 27 年度で 56.7%、うち関関同立現役合格数は 39 人。これを引き上げ、平成 31 年度にはそれぞれ 65%、50 人とする。

2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

(1) 使える英語力の育成

- ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。
- イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、日本英語検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。
- * 平成 28 年度の英語検定資格取得者は第 2 回終了時点で 40 人、英語学力調査で全国平均以上は 28%。平成 31 年度にはそれぞれ 80 人、50%とする。

(2) 国際感覚の育成

- ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
- イ 海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。
- * 生徒向け学校教育自己診断における、異文化理解教育に対する肯定率は平成 28 年度が 78.5%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 80%とする。

3. 豊かな人間力を持った生徒の育成

(1) 体験学習の充実

- ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。
- イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。
- * 生徒向け学校教育自己診断における、地域との関わりに対する肯定率は平成 28 年度が 75.4%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 80%とする。

(2) 学校行事、部活動の振興

- ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。
- イ 部活動の活性化を図る。
- * 部活動加入率は平成 28 年度が 78.8%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 85%とする。

(3) 規範意識の醸成

- ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。
- イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒を育成する。
- * 生徒向け学校教育自己診断における、規範意識に関する設問の肯定率は平成 28 年度が 92.6%。平成 31 年度まで 90%以上の水準を維持する。

(4) 人権意識の向上

- ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に人権教育を推進する。
- * 生徒向け学校教育自己診断における、人権教育に対する肯定率は平成 28 年度が 84.9%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 90%とする。

4 信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上)

(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。

(2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。

(3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。

- * 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率は平成 28 年度 76.1%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 85%とする。
- * 保護者向け学校教育自己診断における、情報発信に対する肯定率は平成 28 年度 86.0%。これを毎年引き上げ、平成 31 年度には 90%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目「本校に入学してよかった」(生徒)の肯定率 82%(H28:85%)、「入学させてよかった」(保護者)の肯定率 91%(H28:93%)と何れも 80%以上の高水準を維持しているが、「学校に行くのが楽しい」の肯定率は 78.1%(H28:83%)と前年度を下回った為、生徒一人ひとりの願いに応える更なる工夫ときめ細やかな対応が必要と考えられる。 ・質問項目「進路実現ための情報を十分に提供している」に対する肯定率は生徒が 87%と前年度比上昇したが、保護者は 80%と水準自体は低くはないが、前年度に比べて低下した。保護者に届き保護者のニーズにあった進路情報を提供していくことを次年度以降考えていきたい。 【学習指導等】 ・授業の満足度に対する質問では生徒向け 65%、保護者向け 72%が肯定的な意見を持っている。一方で教員向けの「わかりやすい授業をする為に工夫を積極的に行っている学校である」との質問に対する肯定率は 88%と高くギャップがある。教員の工夫や努力がまだ十分に生徒に浸透していない部分があると予想され、今後の課題と考えられる。 	<p>【第 1 回】 H29. 6. 28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の取組み「先輩の話を聞く会」は生徒が同じ目線で話を聞けるのがよい。 ・通学時の挨拶などの生徒のマナーは大変好感を持っている。 ・強制されているのではなく、自発的に挨拶をしてくれるのが良い。 ・グローバル専門コースの取組みは他校の取組みも参考にしてみてもどうか。 <p>【第 2 回】 H29. 11. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの中学生が目標とする魅力ある学校になっていると思う。 ・子ども園に実習に来ている生徒から、子ども園の子どもたちも学ぶことがあるようだ。 ・5年ぶりの国内修学旅行だったが、現地の方との交流などを肯定的な感想を聞いている。 <p>【第 3 回】 H30. 2. 22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業への満足度に学年によって差があるのであれば分析してみてもどうか。 ・英語 4 技能重視の入試改革に向けて、グローバル専門コースの取組みを学校全体の取組みに広げてみてはどうか。

府立芥川高等学校

<p>【生徒指導等】</p> <p>・質問項目「校則を守っている」の肯定率は生徒 91%、保護者 93%と引き続き高く、生徒が安心して学校生活を送れる落ち着いた環境ができていることを示している。SNS 関連の情報モラルについての指導は今後の課題と考えられる。</p>	<p>・1年生で行っている職業ガイダンスは他の学校にはあまりない取り組みであると思う。</p> <p>・部活動の加入率が高いのは本校の魅力だと思う。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成</p>	<p>(1) 学力の向上 ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造する。 イ 教員の授業力を向上させる。 ウ 自学自習力をつける。</p> <p>(2) 希望進路の実現 ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。 イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p>	<p>ア・「授業改善に向けた共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、評価・育成システムを活用しながら、各教科及び教員ごとに PDCA サイクルに沿ってこれを運用する。</p> <p>・生徒による授業アンケートの結果活用や各種研修への参加を奨励し、教員が自発的に授業改善に取り組む環境を整備する。</p> <p>イ・若手教員を授業者としその他の教員を生徒に見立てた研究授業、教員相互の授業見学や指導助言、大学教員や近隣中学校教員等を講師とした研修会等を企画し実施する。</p> <p>・ICT授業展開のための環境を整備する。</p> <p>・ICTを使った授業展開を先進校等の取組みを参考にして推進する。</p> <p>ウ・自習室及び質問スペースの活用の為、更なる環境整備を促進する。</p> <p>・生徒の時間有効利用を促す為の時間調査やキャンペーンを展開し、生徒の自宅学習時間の増加を図る。</p> <p>ア・「憧れる存在をみつけよう」をコンセプトとし社会に貢献する自分像を明確にイメージすることを目的として、直近の卒業生による進路講話や職業別ガイダンス等を実施する。</p> <p>イ・学力分析システムを活用した個別懇談等きめ細かい進路指導を充実させる。</p> <p>・大学入試結果を詳細に分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。</p> <p>・PTA 学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早い段階で生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただき、希望進路の実現を図る。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 70%以上。(H28 ; 68.0%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目) 78%以上。(H28 ; 75.8%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 78%以上 (H28 ; 第2回 75.5%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 90%以上。(H28 ; 87.4%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。(H28 ; 83.8%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。(H28 ; 82.3%)</p> <p>・四年制大学現役進学率 60%(H28 ; 54.3%)</p>	<p>ア・教科指導への肯定率は 64.6% (前年度比 3.4%減)。「授業力強化月間」を設け研究授業と観点別評価の教員研修を実施。次年度は組織的な取組みを実施し、授業改善を図っていききたい。(△)</p> <p>イ・授業満足度は 77.0%と前年度を上回った。若手教員の研究授業などによる授業力向上や授業相互見学等の有効な仕組み作りを次年度に向けて検討したい。今年度も追加購入した ICT 機器(短焦点プロジェクタ 2 台→4 台)は良く利用されている。(△)</p> <p>ウ・2回目のアンケート結果は 74.3%と前年度並み。自学自習習慣の定着に向けて効果的な課題設定や時間の有効利用を促進する指導に取り組みたい。(△)</p> <p>ア・生徒の満足度は前年度と同水準の 87.9%と前年度以上の高水準を維持できた。次年度もホームルームや「総合的な学習の時間」でのキャリア教育と個別の進路相談を充実させるなど、さらに満足度の高い進路指導を推進したい。(△)</p> <p>イ・生徒の満足度は 86.9%と前年度比上昇。(○) 保護者の満足度は 79.7%と前年度比低下。(△) 保護者に対しては進路講演会・説明会、大学見学会などを、より一層ニーズに合ったものを適切に提供し、家庭と連携して生徒の希望進路実現を図りたい。特に進学費用、奨学金等についての情報提供をさらに丁寧に行いたい。</p> <p>・四年制大学現役進学率は未確定 (H28 ; 54.3%)</p>

府立芥川高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成</p>	<p>(1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。 イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> <p>(2) 国際感覚の育成 ア 海外語学研修生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。 イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。</p>	<p>ア・グローバル専門コース選択科目の授業において、高大連携による特別授業の拡充や留学生や大学生との交流などの新たな取り組みを検討するとともに、学習成果の発表の機会を設ける。 イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒には全員に英語学力調査の受験機会を与え、使える英語力を育成する。 ・グローバル専門コースの取り組みをコース以外の生徒に広げていく。</p> <p>ア・外国語指導員（NET）や関係大学、関係機関の協力を得て生徒が国際交流を体験する機会をつくる。 イ・平成 30 年度の台湾修学旅行実施に向けて、異文化理解の学習などの機会を充実させる。</p>	<p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 80%以上。 (H28 ; 78.3%) イ・英語検定等の資格取得者数 60 名以上。 (H28 ; 55 名)</p> <p>ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 85%以上。 イ・学校教育自己診断における異文化理解の取り組みへの満足度 80%以上。 (H28 ; 78.5%)</p>	<p>ア・グローバル専門コース選択科目の授業満足度は 79.3%と前年度比上昇。京都外大との高大連携、関西大学でのワークショップ、グローバルヒストリーの授業でのプレゼン大会等を行い専門コースの内容を充実させ生徒の満足度や達成感も大きかった。(△) イ・英語検定の校内実施は今年度より 2 回に減ったが、延受検者数 115 名は昨年度（3 回実施で 109 名）を上回ったが、延合格者は 52 名（H28;55 名）と微減となった。(△) ア・7 月にオーストラリアの語学研修（12 日間）に生徒 13 名・教員 2 名が参加し、現地高校にホームステイをし、野外活動を含め様々な交流を体験した。参加者が全校集会で研修の参加体験の発表を行い、参加者の満足度は報告書等から 90%以上と圧倒的に高かった。(◎) イ・異文化理解の取り組みへの満足度は 71.3%と昨年度比下回ったが、2 学年の東北への修学旅行では民泊による農業体験や事前・事後の震災学習等、参加生徒の満足度は高かった。平成 30 年度は行先を台湾として現地高校との交流等を実施する為、異文化理解の事前・事後学習の取り組みを予定している。また、来年度は米国から 1 名の留学生を受け入れる予定。(△)</p>
---	--	--	---	---

府立芥川高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
豊かな人間力を持った生徒の育成	<p>(1) 体験学習の充実</p> <p>ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。</p> <p>イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。</p> <p>(2) 学校行事、部活動の振興</p> <p>ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 規範意識の醸成</p> <p>ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。</p> <p>イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守れる生徒を育成する。</p> <p>(4) 人権意識の向上</p> <p>ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にすることを大切にする人権教育を推進する。</p>	<p>ア・保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導を充実させ、より福祉に対する意識を高め効果的な学習機会にする。</p> <p>イ・地域主催の行事等への積極的な参加、ボランティア活動、近隣中学校との部活動交流を拡充する。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・新入生の入部率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。</p> <p>ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。</p> <p>・携帯電話スマホ指導においては、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実させる。SNS利用にあたっての情報モラル学習の徹底を図る。</p> <p>イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、専門機関等の協力のもと規範意識を向上させるための指導を行う。</p> <p>・登校時遅刻や授業遅刻の指導により、時間を守り、授業準備をしっかりとできる生徒を育てる。</p> <p>ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にすることを大切にする教育を実践する。</p> <p>・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 80%以上。(H28 ; 78.5%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 80%以上。(H28 ; 75.4%)</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への外部招待者数を前年度比 5% 向上させる。(H28 ; 1,729 人)</p> <p>イ・部活動加入率 80%以上。(H28:78%)</p> <p>ア・懲戒件数、10 件以下。(H28 ; 7 件)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準維持。(H28 ; 92.6%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 80%以上を維持。(H28 ; 84.9%)</p>	<p>ア・肯定率は 71.3%と前年度を下回ったが、2 学年全員が行う老人ホーム実習と認定子ども園での保育実習の体験学習はコミュニケーション力育成にも非常に効果があると考えられる為、次年度以降も継続し、内容をより充実したものに発展させていきたい。(△)</p> <p>イ・肯定率は 72.7%と前年度並み。近隣中学校との部活動交流や、和太鼓部・吹奏楽部・ダンス部・軽音ロック部等で積極的に地域行事へ参加し交流機会を増加できた。(△)</p> <p>ア・外部招待者数の来場は合計 2,213 人。次年度も広報方法を工夫して、特に地域の中学生の来校者増加をめざしたい。(◎)</p> <p>イ・部活動加入率は 75%と引続き高水準を維持できている。新入生の入部率は 88%と高く、特に男子の入部率は 90%を超え、部活動は運動部・文化部とも活発に活動中。(△)</p> <p>ア・懲戒件数 13 件と前年度比増加した。引続き生徒の自主性を尊重しつつ、家庭と連携した生徒指導を継続したい。遅刻数は前年度比▲10%程度減少し改善している。(△)</p> <p>イ・肯定率は 91.4%と 90%を上回っている。遅刻や交通ルールやマナーの指導等、生徒指導全般において指導が浸透してきたものと考えられる。引続きこの水準を維持していきたい。一方で SNS の使い方に対する指導等、今後対応すべき課題も出てきており、次年度もきめ細かく指導していきたい。(◎)</p> <p>ア・肯定率は 77.1%と 80%を若干下回った。今年度もセクシャルハラスメント、デートDV、SNS、いじめ、ヘイトスピーチ、就職差別などをテーマに年間計画に基づき充実した人権学習を実施することができた。(△)</p>
信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上)	<p>(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。</p> <p>(2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。</p> <p>(3) 中学生やその保護者に対して、適切な学校情報を発信する。</p>	<p>・今日的な教育課題や業務の円滑化・連携強化につながる教員研修の充実を図る。</p> <p>・次世代を支える教員が中心となって企画運営する教員の自主研修の充実を図り、それらの教員が学校課題解決策を提案できるようにする。</p> <p>・より魅力あるホームページとなるよう、タイムリーに必要な情報を発信する。</p> <p>・新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え、地域及び学校園向け広報を充実させる。</p> <p>・中学生やその保護者の興味や関心を的確に把握し、学校説明会や中学校への情報提供等をよりタイムリーかつニーズに合致したものにします。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率 80%以上。(H28 ; 76.1%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 80%以上を維持。(H28 ; 86.0%)</p> <p>・学校メールマガジンの配信回数 60 回 (H28 年度 59 回)</p> <p>・新聞「芥川」の発行回数、年間 10 回以上の水準を維持。(H28 ; 13 回)</p> <p>・学校説明会等の参加者数 5%アップ。(H28; 1815 名)</p>	<p>・肯定率は 78.9%と前年度を上回った。教員がより連携し協力しながら取り組めるような組織作りや教員研修等を実施していきたい。(△)</p> <p>・肯定率は 83.4%と高水準を維持している。学校ホームページや学校新聞「芥川」の更なる充実やタイムリーな情報提供を行っていきたい。(○)</p> <p>・学校メールマガジン配信回数は 43 回 (2/7 現在、昨年度同時期 51 回)。次年度も情報をタイムリーかつ、わかりやすく提供することを心がけたい。(△)</p> <p>・新聞発行は計 13 回 (2/7 現在、昨年度同時期 12 回) を発行した。保護者や地域との連携ツールとして有効に機能している。(◎)</p> <p>・学校説明会等の参加者数は計 2,090 名。オープンスクールと計 3 回の学校説明会では中学生の参加者が増加した。(◎)</p>